

〔伊呂波字類抄〕伊人事「幼イトケナシ」〔同於人事〕稚チサナシ 幼 兒 庸 種チサナシ 少チ巳上同

少シ白癡

〔書言字考節用集〕四人倫「幼イトケナシ」曲禮、人生十年曰幼、稱増小凡人物、幼稚同、俗孺代醉宋人、童子十略、

以下謂童子禮記、童男非女約會、非童體、童形、童幼、童稚、童蒙周禮註、蒙、幼稚少年、

幼童幼少傳王莽、幼稚、兒童、兒女、小兒、少人、少童、

〔令義解〕凡男女略十六以下爲少

〔倭訓栞〕伊編三「いとけなし」幼稚をいふ、いとけなしともいへり、今いふいたいけにて、なしは助

の詞か、又无言解の義、物毎にいひたらはぬ意をさなしと、同じ義成べし、略中

いわけなき、幼稚を物にかくいへり、いとけなしと同じ、物に驚きやすき時なれば、上の義と驚

通へり、いわけてとも侍れば、是もなきは助の詞なるべし、又は發語、別无の義なりともいふ、

〔源氏物語〕二木「かくてけしからぬこゝろばへは、つかふものか、おさなき人のか、ることいひつ

たふるは、いみじくいむなるものをといひおどして、略下

〔承久記〕下「二郎兵衛云ケルハ、高井殿御邊ハ、同ジ一門ト乍云、イトケナキヨリ、兄弟ノ契ヲナシ、馴

遊デ、御邊十七、兼義十六、只今死ン事コソ嬉シケレ、略下

〔八雲御抄〕三下「童うなひこ、うなひともてわらは、万あげまき」

〔藻鹽草〕十五童

わらはへてわらは、童け也、源氏、うへ童息也、人のことねり童常はのわ、たいぎの童大

と云心歟、大なる才俊、さぶらひわらは、童上也、

〔物類稱呼〕人倫「小兒をちご、京にていと、稱す、などの下、略なるべし、關東にてねんねといふ、

諸國の通語也、は信州にてあかといふ、同國にて幼女なりと、越後にてぼつこといふ、同國にて、みどりかこ